

資料1 令和3年度の実施内容の報告及び令和4年度の実施への方向性の検討

No.	令和3年度の実施内容			令和4年度の実施への方向性
	主な課題	対応及び経過	成果及び結果	
1	福祉サービス事業所の児童虐待防止に関する啓発が必要（継続）	第1回こども部会にて令和2年度の実施内容として報告済み。	今後も児童発達支援センターの機能強化事業として、福祉サービス事業所への児童虐待防止に関する啓発は継続する。	既に対応済みであることから終結する。〔終結〕
2	聴覚障がい児への支援について知ることが必要（継続）	令和4年2月22日（火）に「聴覚障がい児を受け入れるための研修」と題して、障害児通所支援事業所を対象に研修を開催予定。	別紙1のとおり、研修を開催する際にアンケートも実施予定。	こども部会としては、昨年度は相談支援事業所向け、今年度は障害児通所支援事業所向けに実施することで対応済みであることから終結する。今後も研修等を必要とする場合は継続して実施できる場が必要と考える。〔終結〕
3	教育と福祉の相互理解が必要（継続）	障がい福祉課として、県特別支援教育センターの主催する「教育と福祉との連携・協働検討会議」及び市学校教育課の主催する「福井市特別支援教育専門委員会」にそれぞれ出席した。また、福井市特別支援教育専門委員会における地区別協議会（市内の特別支援学校や小中学校が地区別で構成される）が10月と1月に開催され、それぞれの会議に障がい福祉に係る事業所が参加した。	10月の地区別協議会では、委託相談支援事業所等が参加し、福祉と教育の連携に関してグループワークなどによる意見交換等を行ったほか、市内障害児通所支援事業所及び障害児相談支援事業所なども傍聴するなど、約150名が参加した。 1月の地区別協議会では、相談支援事業者連絡会の協力のもと、委託相談支援事業所や市内障害児相談支援事業所が参加し、教育と障がい福祉における連携のあり方等について、グループワーク等により検討を行った。	今後も障がい福祉課が市学校教育課の主催する「福井市特別支援教育専門委員会」に障がい福祉課として参加する中で、年に3回程度開催される地区別協議会において、教育と障がい福祉の連携の場が継続して設定できるようにしていく。こども部会としては、来年度も引き続き経過報告にて実施内容等を把握し、地域課題の終結の可否を見極める。 〔対応継続〕
4	支援学校卒業後も安心して生活できる環境を作るための支援体制を在学生のうちに整えておくことが必要（継続）	令和3年11月13日（土）に「輝け！こどもの笑顔！！特別支援学校と放課後等デイサービスの連携」と題して、特別支援学校及び放課後等デイサービス事業所を対象に研修を開催した。	放課後等デイサービス事業所が6事業所参加し、別紙2のアンケート結果のとおりの評価があった。 今回の研修等を通しての結論について、以下の2つを確認した。 ①教育と福祉が卒業後を見据えた支援⇒視点を持って連携していくことができると良い。 ②出口＝卒業後の受け入れ課題に取り組む必要がある。	①について、卒業までに身に付けておくことと良いこと、卒業後にどのような福祉サービスがあるか等を知る機会や顔の見える関係になるための機会づくりを継続していく（学校と放デイ事業所／放デイ事業所と放デイ事業所）。そのためには新たなWGまたは実働する機関が必要である。 ②について、こども部会では、子どもたちが卒業後も地域で過ごせることを目指し、療育や教育等でできることを考えていく。一方で、地域で過ごすことがどうしても難しいケース（強度行動障害、親亡き後など）をどこが支えるのかということは従来の課題であるため、成人対象のショートステイや入所等の受け入れ先は足りているのか？入所している方々は地域に戻っているのか？などの卒業後の受け入れの課題を居宅支援部会、地域移行・地域定着部会に提起していく。 〔対応継続〕

5	「ことばの教室」の役割がかわったことによる児童の支援体制の検討が必要（継続）	子どもに関する発達上の気がかりさや養育上の気がかりさなどの相談を広く受け付けている「子ども家庭センター相談室」の機能等を確認し、ことばの教室の委託先である市社会福祉協議会にその旨を紹介した。	市社会福祉協議会及びことばの教室の先生が子ども家庭センター相談室の見学を行い、それぞれが担う役割や今後の連携についての確認を行った。また、子育て家庭のさまざまな相談先に繋がるよう、ことばの教室に「はぐくむ BOOK」を設置した。また、いずれの課題についても、市の健康管理センター、子育て支援課、子ども福祉課が定期的で開催している「妊娠期から子育て期の継続的な支援に関する市内連絡会」に障がい福祉課としても参加することとなった。	既に対応済みであることから終結する。〔終結〕
6	特性に応じた支援の継続が必要（継続）	「子育てファイルふくいっ子」の周知に関する課題等について、こども部会において話し合われた意見を部会長及び事務局が県障がい福祉課との意見交換等を行うこととしている。		
7	年長児の就学に向けた放デイ利用申込で、必要な人が利用できる環境が必要（新規）	臨時こども部会を開催し、地域課題が起こる状況やそれらから見える問題点などを確認し、こども部会としてできることの検討を行った。	今後の取り組み方針について、以下のとおり確認した。 ①放課後等デイサービス等の案内手引き及びチラシの作成を行う。 ②放課後等デイサービス利用に関する実態調査を行う。 ③部会の下部組織として障害児通所支援事業所連絡会を置くことを検討する。 ④児童館や児童クラブとの連携、療育の必要がない子どもを預かる場、放課後等デイサービス利用後の出口の問題について、11月の運営会議で課題提起する。	

①について、障がい福祉課が今年度中に案を作成し、来年度の案内手引きとして配布できるよう準備していくため、こども部会としての意見も反映された物となるように状況を確認していく。  
②について、障がい福祉課が実施する予定の事業所等への調査の状況を確認し、来年度の取組を検討していく。  
③について、部会の下部組織を置くことを検討する。  
〔対応継続〕